

行政視察報告書

令和 5年 7月 19日

呉市議会議長様

呉市議会議員

林田 浩秋

嵯山 政孝

渡辺 一雄

田中 みゆ子

河原 初海

佐伯 航一郎

片岡 慶行

次のとおり行政視察したので報告します。

1. 視察期日

令和 5年 7月10日(月), 11日(火), 12日(水)

2. 調査項目

北海道 恵庭市 市と民間の複合施設「えにあす」について

北海道 苫小牧市 アニメツーリズム推進事業の取組について

北海道 札幌市 若者支援総合センターについて

3. 参加議員

林田 浩秋, 梶山 政孝, 渡辺 一照, 田中 みわ子,
河原 初海, 佐伯 航一郎, 片岡 慶行, 院去 裕

4. 随行者

議会事務局 副主任 大下 慶

5. 各調査項目の報告

視察先ごとに以下の通り報告する。

❖ 北海道恵庭市

1. 調査項目

市と民間の複合施設「えにあす」について

2. 調査対応者

- ・ 恵庭市議会 副議長 川原 光男
- ・ 恵庭市企画振興部まちづくり拠点整備室 理事（室長兼務） 岡田 貴裕
- ・ 恵庭市企画振興部企画課 課長 早川 剛志

3. 調査期日

令和5年7月10日（月）14時～15時30分

4. 恵庭市の概要

- ・ 人口：70,069人
- ・ 世帯数：35,007世帯
- ・ 人口増加がみられる都市である。
- ・ 恵まれた交通アクセス，大学など教育機関も充実している。（若年層の往来を多く感じられた）

5. 調査目的

子ども，若者を含めた多世代が集まる3rd placeとして，公共機能と民間機能を集約した複合施設「えにあす」の拠点事例に学び，呉市における新たな公共施設及び空間整備の在り方の参考とするため視察をおこなった。

6. 調査内容

【恵庭市からの説明概要】

緑と語らいの広場（えにあす）事業は，第5期恵庭市総合計画，恵庭市総合戦略，恵庭市都市計画マスタープランなどに示す「コンパクトなまちづくり」「賑わいのあるまちづくり」などを具現化する事業としておこなわれた。恵庭駅に近い立地特性を活かして，「3rd place=そこからの場所」をコンセプトにコンビニやスポーツフィットネスクラブといった民間機能と市民活動拠点，保健センター，図書

館、子育て・子ども育成施設など公的機能を備えた複合的な施設が整備された。その整備にあたっては遊休地となっていた市所有の未利用地に定期借地権を設定し、民間事業者が建物建設、所有、維持管理運営及びそれに伴う資金調達をおこなう手法が用いられた。そのため維持管理運営費は圧縮され、財政的メリットを得られており、この整備は議論の開始から完成まで約2年という比較的短期間でおこなわれている。ちなみに整備にあたって、検討委員会の開催はもちろんのこと議会や各課調整、学校や商店街等への市民説明も綿密におこなわれた。

詳細は『資料1 恵庭市 緑と語らいの広場「えにあす」事業概要を参照ください。』

【事前の質問事項と回答について】

添付の『呉市議会 質問事項 回答』を参照ください。

【施設見学の所感】

・外観は工場風な簡素な様子である。見学は平日日中であったが駐車場の利用率は高いように見受けられた。

・施設1階、2階の窓際スペースは学生を中心に自習などの利用が多く見受けられた。

・中央部は吹き抜けで、階段部分も創造的な新鮮な造りとなっている。

・2階は保健センターのスペースであり、状況に応じて共用スペースロビーも活用しているとのこと。

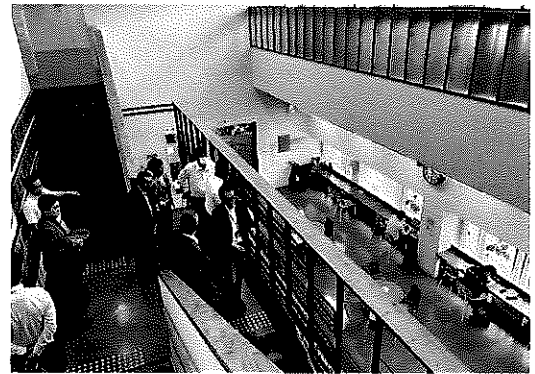
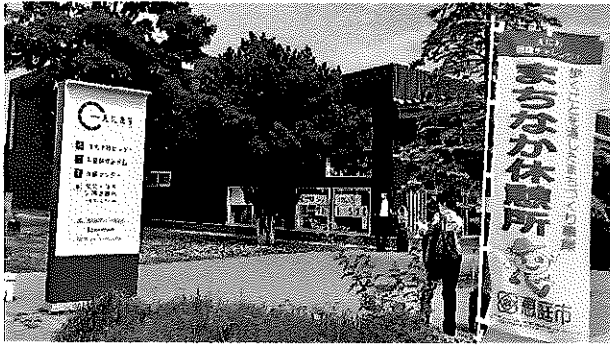
・1階について、スポーツフィットネスは見学できなかったが、コンビニ、図書館分室、学童クラブ拠点、FMラジオ拠点などはコンパクトな空間に配置されていた。また各スペース仕切りも少なく敷居が低いため、サードプレイスとして若い世代の利用しやすい雰囲気を感じた。

・図書館は無人窓口であり、センサー等で図書を感知して貸し出しもスムーズにできるようである。また、子供向けスペースとしての配置や設備も感じられた。

図書館機能はテーマから逸れるが、手のひら認証システムや貸出ロッカーなど今後の図書館の在り方の参考となりそうな部分もあった。

・屋内にはホールもあり、学童クラブに使われているようである。

えにあす施設写真



7. 調査結果及び成果

サードプレイス、多世代交流の拠点として明確な市民のコンセプトの通り、一部の世代だけの施設ではなく、子育て世代や学生など若い世代も広く利用しやすい公民の複合施設であったと感じられた。呉市の公共施設にも多世代交流、特に若い世代に利用しやすい視点と整備がしっかり盛り込まれることが必要であると会派内で認識を共有したところである。またこの恵庭市の従来通りの流れや形式などにとられない発想、そして一貫した取り組み理念や姿勢などにも刺激を受けた。特に低コスト化や関係各所との綿密な連携調整がはかられたことはこれからの呉市における公共施設や空間の整備の在り方のため大変参考となるものである。

呉市にも多くの公共施設の更新などが今後見込まれるが、こういった事例などを参考により一層の取り組みが必要であると考えます。

8. その他、参考資料について

- ・緑と語らいの広場「えにあす」事業概要【添付あり】
- ・呉市議会 質問事項 回答【添付あり】
- ・恵庭市勢概要
- ・第2期恵庭市総合戦略ガーデンシティプラン



❖ 北海道苫小牧市

1. 調査項目

アニメツーリズム推進事業の取組について

2. 調査対応者

- ・苫小牧市産業経済部産業振興室観光振興課 課長 三橋 大輔
- ・苫小牧市産業経済部産業振興室観光振興課 主事 安達 駿介
- ・苫小牧市議会事務局 副主幹 岸田 壮司

3. 調査期日

令和5年7月11日（火）10時～11時30分

4. 苫小牧市の概要

- ・人口 : 169,528人
- ・世帯数 : 90,525世帯

5. 調査目的

苫小牧市の観光政策，特にアニメツーリズム推進事業の事例に学び，呉市における観光政策への展開の可能性等を調査するため視察をおこなった。

6. 調査内容

【苫小牧市からの説明概要】

苫小牧市では同市観光振興ビジョンを策定し，「地域の魅力の有効活用」，「まちぐるみでの観光推進」，「新たな魅力づくり」に取り組んでいる。具体的には「地域の魅力の有効活用」として，【自然】，【産業】，【スポーツ・レジャー】，【食】，【文化】といった観光資源を情報発信するとともに，イベント等を開催している。また「新たな魅力づくり」として，各種イベントの開催や今回の調査項目である「アニメツーリズム*1 推進事業を実施している。

アニメツーリズム推進事業は令和2年度から実施しており，5つの楽しみ方「見る・味わう・買う・学ぶ・体験する」の施策に取り組んでいる。苫小牧市とゆかりある作品と具体的な事業内容は添付する資料を見て頂きたいが，いくつか例を挙げ

ると様々なコラボや声優を招いてのトークショーの開催、記念撮影パネルなどの設置がおこなわれている。

具体的な例として、現在苫小牧市では大人気ゲーム「ウマ娘 プリティーダービー」の事例が注目を集めており、その現状と課題について説明があった。ゲームの説明は割愛するが有名な競走馬である「ホッコータルマエ」が平成 27 年に「苫小牧市観光大使」に任命され、令和 5 年 1 月 10 日に擬人化キャラクター「ホッコータルマエ」と苫小牧市公認キャラクター「とまチョップ」がコラボしゲームへ初登場すると共に、市観光案内所等で「ホッコータルマエ等身大パネル」が設置された。この反響は非常に大きく、とまチョップの Twitter フォロワー数が 3,700 から 10,150 に増加する共に、観光案内所利用者増加、とまチョップ関連グッズの売上増加がみられた。しかしこれからの課題として、新規の取り込みとリピーターの確保に向けた様々な企画、グッズ制作、予算の確保を挙げている。

苫小牧市におけるアニメツーリズム推進事業のこれからの取組展開であるが、引き続き苫小牧市のアニメ聖地化を進め、苫小牧市の認知度向上、新規客の確保・リピーターの確保、聖地巡礼による周遊率アップ、経済波及効果向上を期待している。具体的には、限られた予算範囲内で引き続き、ゆかりあるアニメを活かした新規・継続事業を検討する。また「ゴールデンカムイ」で知られる漫画・野田サトル氏の漫画「スピナマラダ」の新作の動きがあることから、コラボレーションも開始する予定である。

*1 アニメツーリズムとは、アニメやマンガの作品の舞台になった土地や建物、作品に関連する建造物や博物館などの施設、作家のゆかりの地などを訪れる旅行（聖地巡礼）現代、そのインパクトある経済波及効果と消費動向に関心が集まっている。呉市においては「艦これ」、「この世界の片隅に」などが当てはまる。

【質疑応答の概要】

イベントの詳細を質疑応答で尋ねたところ、苫小牧市には総合的にまちづくりに取り組む「未来創造戦略室」があり、その部署を中心に市公式キャラクター「とまチョップ」や「TOMAKOMAI MIRAI FEST」など様々なインパクトあるイベントアイデアを打ち出しているようであり、参加した議員からはその部署について強い関心がみられた。

7. 調査結果及び成果

アニメなどポップカルチャーの影響力は世界的に広がりを見せており、観光資源としても注目を集めている。苫小牧市では様々なゆかりある作品に対して、市当局が市の予算（約 500～600 万円）内で著作権などの調整をおこない、企画や事業をおこなっており、その姿勢に刺激を受けた。また観光協会などの諸団体との連携がよ

くなされており、呉においても大いに参考としてほしいところである。特に苫小牧市におけるコラボや市内における作品展開は周遊率アップに寄与するものであり、呉市においても民間だけでなく行政としても積極的に取り組むことの大切さを感じた。中でも観光案内所にも立ち寄ったが、アニメなどのグッズも取り扱いがあり、アニメツーリズム推進の明確な姿勢が見て取れた。

その他にも「未来創造戦略室」の企画する施策がいくつかあげられたが、そのインパクトある内容に大変興味が湧くとともに、その取り組みを推進していく苫小牧市の姿勢には大変刺激を受けた。

呉市では「この世界の片隅に」や「艦これ」などゆかりあるアニメやゲームがあり、商店街などを中心に積極的な関わりと展開がみられる。行政側としても、情勢変化激しいこのアニメやゲーム、ライブなどのポップカルチャーに関与・対応し、一步踏み込んだ観光展開を期待したい。特にこの豊かな観光資源に恵まれた呉をアニメや漫画の舞台となるように自ら売り出していくことも、大きな目標を掲げる呉の観光政策には必要ではないだろうか。今回の苫小牧市のようにポップカルチャーにしっかり関与していける呉市であってほしいと議員内で認識を共有でき、新鮮味ある視察となった。

8. その他、参考物資料について

- ・アニメツーリズム推進事業の取り組みについて【添付あり】
- ・～別紙～アニメツーリズム推進事業の取り組みについて【添付あり】



↑ 苫小牧市観光案内所【写真】

❖ 北海道札幌市

1. 調査項目

若者支援総合センターの現地視察及び事業内容について

(札幌市における若者支援施策の概要)

2. 調査対応者

・札幌市子ども未来局子ども育成部子どものくらし・若者支援担当課

課長 引地 志保

・公益財団法人 さっぽろ青少年女性活動協会

若者支援事業課 若者支援総合センター

課長 大水 千広

3. 調査期日

令和5年7月12日(水) 10時～11時30分

4. 苫小牧市の概要

・人口 : 1,971,546人

・世帯数 : 995,195世帯

5. 調査目的

札幌市の子ども・若者育成支援政策の事例に学び、呉市における子ども・若者育成支援の展開の参考とするため視察をおこなった。

6. 調査内容

【札幌市からの説明概要】

『札幌市における若者支援施策の概要』の資料に基づいて、記載する。

札幌市の若者支援は、平成21年度から令和元年度にかけて札幌市若者支援基本構想、令和2年度から令和6年度にかけて第4次さっぽろ子ども未来プランを基本方針として取り組んでいるところである。札幌市では若者支援専門員が課題を抱えた若者に個別の支援を実施する「若者支援総合センター」(1館)、若者同士の交

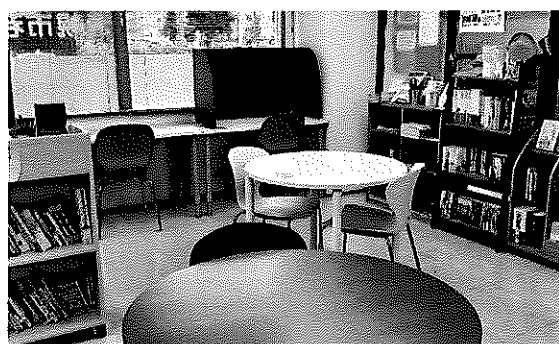
流、仲間づくりや社会参加のきっかけづくりを行う「若者活動センター」（4館）、支援組織間の連絡調整を行う「若者支援協議会」の3つの施設・機能をネットワーク化して「さっぽろ若者支援ネットワーク」を構築している。

まず、札幌市若者支援総合センターの支援体制は資料（図）のように若者総合相談窓口が最初の受け皿となり、個別相談通じて若者それぞれの状況に合わせた支援の在り方を検討し、若者自立支援ネットワークを活かし関係各所と連携して取り組んでいる。具体的な支援事業としては、若者の自立支援事業、社会体験機会創出事業、中学校卒業等進路支援事業、若者の社会的自立促進事業、学校内ユースワーク・アウトリーチ事業がおこなわれている。

次に、若者活動センターでは交流促進事業、社会参加促進事業、ロビー事業がおこなわれている。

若者支援協議会である「さっぽろ子ども・若者支援地域協議会」は平成21年に制定された「子ども・若者育成支援推進法」に基づく協議会として、子ども・若者が社会生活を円滑に営むことを目的として、関係機関による適切な支援を組み合わせ効果的かつ円滑な支援を実施している。

そのほか詳細は資料または施設パンフレットを参照願いたい。



7. 調査結果及び成果

現在、子ども・子育て支援政策の充実が社会の主要テーマとなっているが、成長して社会的な自立を目指していく若者に対する育成支援は呉市を含め、いまだに十分な議論が進んでいないと考える。特に呉市の長期計画では若者というワードは分散し、総合的な支援の在り方としては遅れを感じる。

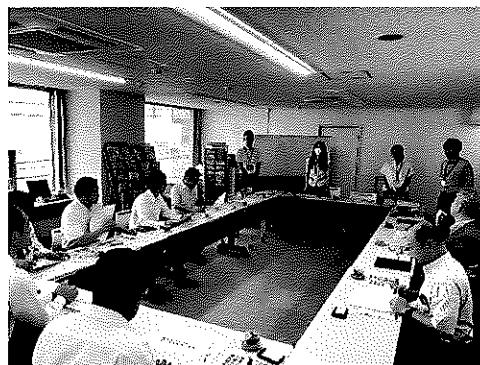
一方で札幌市では明確な計画のもと平成21年度より子ども・若者育成支援施策の充実に積極的に取り組み、今では先進的で充実した支援体制が構築されており、呉市における展開に大いに参考になるものであった。特に施設・機能などハード面だけでなく、ユースワーカーの配置や多様な支援事業などソフト面も充実しており、さらに学校や福祉保健機関などとのネットワークも形式的でなく、綿密に連携・調整が図られていることに驚かされた。また受動的な支援体制ではなく、機関

が積極的に学校や街中に出向いて、若者に対応していることに札幌市の若者支援に対する熱意を感じた。

また若者支援総合センター（2階）だけでなく若者活動センター（1階）も、若者たちの生活にプラスとなる支えとなる機能を充実させており、すべて合わせて札幌市の若者育成支援に寄与していることを感じられた。

この呉市ではこのように明確な若者育成支援に対応できる機関や拠点は少ないのではないだろうか。人口減少対策として、職や住にフォーカスした施策ももちろん大事だが、サードプレイスの必要性が叫ばれている通り若者の居場所や居心地の良さという点も取り組んでいくべきだろう。特にユースセンターといった若者活動センターのような若者をターゲットとした施策の充実は、まちづくりの担い手としての若者の地域社会の参画や若者間交流，出会いの創出，若者ニーズの把握など今の社会課題に解消のヒントを得られると考える。

この視察を契機に札幌市と同様な支援が難しくとも、若者育成支援が今の社会そして呉市において必ず必要なことであり、呉市としても若者育成支援の推進についてより一層の議論を深め、取り組んでまいりたい。



8. その他，参考物資料について【添付あり】

- ・札幌市における若者支援施策の概要
- ・札幌市若者支援総合センター自立支援事業実績
- ・札幌市の若者向け総合相談のご案内（リーフレット写し）
- ・さっぽろ相談機関への道しるべ（パンフレット表・裏面）
- ・札幌市若者支援総合センター・札幌市若者活動センター（リーフレット写し）

以上